

水野教育長記者会見概要

日時：令和6年10月22日（火）14時00分～14時25分

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

【水野教育長より】

ご挨拶

ようやく遠くの方でキンモクセイも香り始めまして、空を見ると雲もずいぶん高くなってきました。ようやく夏が終わっていき、秋が近づいてきたんだなと感じております。

前回の記者会見から今月に至るまで、議会の中の代表質問、一般質問、そして教育常任委員会と、本当に多くの議員の皆さんから教育に関係するご質問を頂戴いたしました。

また答弁内容については、議会のアーカイブの方でもご覧いただけますので、ぜひご覧いただければと思います。

教育委員会の取り組みについて

①大阪府中学校生徒会サミットの開催について

大阪府教育庁では、生徒の自主的・主体的な姿勢を育み、各中学校における生徒会活動の充実を図ることを目的とし、毎年「大阪府中学校生徒会サミット」を開催しています。

令和6年度は11月9日（土曜日）に、府内の43市町村の公立中学校、府立中学校及び私立中学校の生徒会代表が、大阪府議会議場にて一堂に会し、お互いの生徒会活動についての交流や共通テーマに対する意見交流や協議を行います。

今年度の共通テーマは、「魅力ある学校 あなたは何推し？」というテーマです。

魅力ある学校の推しのポイントを協議することで、子どもたちが考える「魅力ある学校」とは何なのかを明らかにし、そのような学校にしていくための生徒会活動とは一体どういうことなのか、何をしていけばいいのかと考えを深められる機会になればと考えております。

このサミットを通じて、大阪の子どもたちが生き生きと輝く学校づくりの推進に繋がるように願っております。

②府立・私立学校の生徒の知事表敬訪問について

令和6年度全国高等学校総合体育大会など、各種活動の全国大会や国際大会で優勝を果たした府立・私立学校10校の生徒の皆さんによる知事表敬訪問が10月7日に行われました。

各校の代表選手の生徒から、知事への優勝の報告と、支えてくれた周囲の方への感謝や今

後の抱負が述べられました。私も参加させてもらいましたが、生徒の皆さんは堂々とした様子で、更なる高みをめざす気持ちにあふれており、大変心強く感じました。

知事からは、「素晴らしい成果を取めた皆さんの結果はもちろんのこと、それに至るプロセスに大きな価値がある。」とお祝いの言葉が伝えられました。

訪問された選手には、記念品として知事直筆の色紙と、もずとも協定の締結先でもあるカルビー株式会社様からご提供いただいたポテトチップスが渡され、最後は和やかな雰囲気の中で記念撮影を行いました。生徒たちから元気をもらうとともに、大阪の子どもたちの可能性を実感できる貴重な機会となりました。

③府立東淀工業高校、府立泉尾工業高校の生徒の教育長表敬訪問について

府立工業高校の生徒が全国レベルでの活躍を成し遂げ、このたび教育長表敬訪問がございました。

「溶接甲子園」とも言われているのですが、8月に愛媛県で行われた「第8回全国選抜高校生溶接技術協議会 in 新居浜」において、東淀工業高校の機械工学科3年の女子生徒が見事に最優秀賞を受賞いたしました。

さらに、こちらは「ファッション甲子園」とも言われています、青森県で行われた「第23回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会」において、泉尾工業高校ファッション工学科3年の女子生徒が優勝いたしました。

どちらの大会も、全国の工業系高校で専門分野における知識、技術を学んでいる生徒が、高い精度と完成度が求められる課題に挑み、その技術を競うもので、その内容はプロに求めるものに差がないというお話でした。

多くの生徒が日々の授業や放課後に練習をし、技術を磨き、大会に臨んでいる中、府立の工業高校の生徒が活躍できたことは快挙だと思います。

工業高校の生徒は、高い技術力を持っておりますので、今後も様々な場面での活躍を期待するとともに、未来の大阪の産業基盤を支える人材になってほしいと願っております。

④中之島図書館の特別展について

大阪府立中之島図書館では、本日10月22日から11月16日まで、令和6年度特別展「大阪文学の巨星・藤澤桓夫 生誕120年 大阪と将棋を愛した作家が遺したもの」を開催いたします。

みなさんは藤澤桓夫さんをご存知でしょうか。早速、私もウィキペディアでいろいろ調べてみました。この藤澤桓夫さんという方は、中之島図書館が開館した明治37年(1904年)に大阪で生まれ、生涯のほとんどを大阪で過ごし、数多くの文学作品を遺しました。

また、将棋や書画など、多くの趣味を持っていました。特に将棋はアマ五段の実力を持つほか、観戦記や将棋を題材にした小説も多く遺しました。

中之島図書館には、藤澤桓夫さんのご遺族から寄贈を受けた書籍、書簡、原稿、書画など

約 3,500 点を「藤沢文庫」（*中之島図書館の文庫名表記では、「沢」の字を用います。）として収蔵し、閲覧に供しております。

今回の特別展は藤澤桓夫にスペックスポットを当て、彼の代表作を始め、文学仲間との交流がわかる資料のほか、彼が趣味としていた将棋に関する資料を「藤沢文庫」の中から選定し、ご覧いただけます。

今回の展示を通して、大阪を代表する作家、藤澤桓夫の作品に触れ、彼の魅力をお伝えできればと思っております。

⑤中央図書館のイベントについて

大阪府立中央図書館 ライティホールにおいて、令和 7 年 2 月 9 日、「第 18 回若者ダンス・カーニバル」を開催します。

このダンス大会は、図書館の横で踊っていたダンス好きの若者たちのために、大きな舞台で発表する機会を設けてあげたいという図書館職員の発案から始まっています。

現在、出場チームを募集しております。応募条件は、16 歳から 25 歳までのアマチュアによるダンスチームです。ジャンル不問で、1 チーム 3 分間の中で趣向を凝らしたパフォーマンスを発揮していただきます。

募集チームは 15 組です。予定数以上の応募があった場合は、厳正な抽選をもって出場チームを決定いたします。応募締切は 11 月 30 日です。詳細は大阪府立中央図書館ライティホールのホームページをご覧ください。

ちなみに昨年度は、ゲストダンスチーム 2 組を迎え、合計 10 チームが出演し、大きな盛り上がりのあるステージとなりました。今年度も引き続き、エイベックス・ダンスマスター様にご協力いただき、広報担当副知事もずやんが参加し、さらに活気のあるステージを予定しています。

たくさんチームのご応募、そして、ご観覧いただける皆様のご来場をお待ちしております。

⑥地域教育振興課のインスタグラムについて

担当課から教育長室に、プロモーションでインスタグラムを始めましたとチラシを持ってきてくれました。最初に思いましたが、このチラシ、おしゃれやなと思いますよね。このチラシは手作りだそうです。ぜひ、QR コードで読み込んでいただければと思います。

この地域教育振興課というのは、市町村教育委員会等と連携しまして、地域学校協働活動や家庭教育を支援するとともに、知識を獲得し、思考を深化し、感性を磨く読書活動や個人の要望や社会の要請に応える社会教育を推進しております。

今後、このインスタグラムでは、地域教育振興課が実施する研修の案内や、研修時の様子、動画などの投稿をしていく予定です。

この 10 月に始動したばかりですので、投稿は少ないですが、「見て伝わる」ように、より

タイムリーで細やかな発信を行っていきたいと考えております。地域教育振興課のインスタグラムをご覧ください、フォローいただきますよう、ぜひお願いいたします。

○教育長による学校訪問

私の学校訪問に関しては、皆さんのお手元の資料のとおりでして、10月17日に門真なみはや高等学校を訪問しました。

週末には長吉高校の50周年記念式典もあり、そちらの方にも参加してきました。私からは以上です。

【質疑応答】

○教育庁内のインスタグラムの開設状況について

(産経新聞)

地域教育振興課のインスタグラムについてですが、他の課などでインスタグラムを開設されていますか？

(水野教育長)

現在、インスタグラムは他の課ではおそらく開設されていないかと思えます。運用としては、各府立高校でも、生徒自らがインスタグラムをどんどん発信していき、自分たちの後輩を自分たちで作っていくだと取り組んでいます。

やっぱりインスタグラムが、若い世代に刺さるんだなと感じました。我々としても、これからその課の特徴や発信内容によっては、インスタグラムのアカウントは増やしていくことを想定しております。

(課としてのインスタグラムはありませんが、府立中之島図書館、府立中央図書館、弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館、府立青少年の家のインスタグラムがあります。ぜひ、フォローしてください。)

○入試制度改革のスタート時期について

(産経新聞)

先日の議会の中で、入試制度改革について令和8年をめざすというお話をされたと思いますが、令和10年をめざすと変更されました。最初に言っていた目標からずれることは珍しいとお聞きしたのですが、改めて2年遅らせるとした理由をご説明いただけますか。

(水野教育長)

誤解のないように最初にお伝えしておきたいのが、最初に我々が令和8年とお出ししたのは、「最短ではいつになるのか」という質問に対して、私がこの場で「周知の時間を1年

半は最低設けないといけませんので、今から考えると、1年半後の令和8年が最短となる。」と、日程の件を出したのはそれが最初かと思います。

ただ、その時点で私達庁内の議論の中で、令和8年からスタートする前提でいたかという点、前提ではありませんでした。

なぜかという点、入試制度が変わるということは、子どもたちや保護者にとって、どういう活動、どういう勉強をしていけば自分の望む進路にたどり着けるのかというゴールの形が変わるので、やはりこれは大きな混乱を生みます。

ですので、仮に最短の1年半の周知期間を置いて令和8年からのスタートをしたとすれば、中学2年生の段階で急に1年後の入試の形が変わりますので、これはやはり難しいだろうと思っていました。

令和9年または令和10年のどちらにするかという議論の中で、令和10年にすれば、現時点の小学6年生が中学3年生になるときの入試制度が変わることになりますので、子どもたちのことを考えれば、令和10年に変わることが一番混乱がなく、子どもたちのめざす進路にもたどり着きやすいただろうと庁内議論の末に、今回、令和10年と打ち出しました。

○入試制度改革までに教育庁が取り組むこと

(読売新聞)

問題や改善点があるからこの改革を行うということは、令和10年までの間に高校に入る子たちには、その問題や改善点が残ったままになってしまうということも悩ましかったと思います。

特に前倒しの理由としている、不登校の生徒、配慮が必要な生徒の情報をどう引き継ぐのかという点、いろいろな意見が出ています。改革の前までにできる範囲で、教育長ご自身は具体的に例えばこんなことをしたらいいんじゃないかというアイデアがありましたら、教えてもらえますか。

(水野教育長)

まさにその議論はございました。当然、令和10年にするという点、その間、何もしないのかというお声も出ましたし、元々課題があったから議論をしたはずなのに遅すぎやしないかというお話はありました。

しかし、我々としては、制度が変わるのは令和10年であったとしても、今おっしゃったような府立高校生の不登校の数が多い、中退率が大阪は高いなどの課題に関しては、制度が変わっていくことで当然全てを解決できませんので、それまでにまずはできることをやっていこうということが本筋ではあります。

一つの施策で全てを解決するという考え方ではないのですが、例えば、不登校が多いという問題に関しては、まずは中学校段階からの不登校を極力減らしていく努力を我々はしないといけません。そうなりますと、大阪府教育委員会の立場では、小中学校を管轄している

市町村の教育委員会に対してのサポートを考えていく必要が当然ございます。

そして、不登校になる背景はいろいろありますので、まず、高校の先生方に対しての研修を改めて実施していく必要はあろうかと思えます。

あとはミスマッチですね。入試情報を、ネットを通じて、よりわかりやすく配信する努力をしなければならないということは、施策としては挙げられます。

さらに大きな施策としては、従前から皆様にもお伝えしておりました、学びの多様化学校も我々検討しているところですので、進めていく必要はあろうかと思えます。

他にも言い出すときりはないのですが、入試制度改革が令和10年からになるからといって、それまで何もしないわけではなく、従来出ている課題に対しては、庁内で議論をし、各課連携をしていきながら、施策を打っていく、そのように考えてます。

○入試制度改革の内容について

(毎日新聞)

入試制度改革の内容については、いつぐらいまでに示されることになるのか、決まっていたら教えてください。

(水野教育長)

今この場でお答えできることは、まず令和10年の入試から変わっていくというところで、誤解がないようにお伝えしておく、仮に令和8年からスタートする前提でいたとすれば、令和10年からのスタートになったことで2年間議論が長引くのかということ、そうではありません。周知の時間を多くとりたいわけですので、スタートは令和10年ですが、いわゆるプロセスのところは特に変わりません。

今現状、我々が検討しているスケジュール案としては、2024年の年内で庁内議論をしつかりと完成させ、素案を示し、意見をお伺いする形で発信をします。

意見を伺い、年明けから形を固めていき、早ければ、今の小6の子どもたちが中1になる4月5月あたりでオープンにできればと思っています。

ただ、実際どういう素案に対して、どういうご意見が出るかというのは現段階ではまだわかりませんので、もしかしたら7月ぐらいになるかもしれません。

このあたりのスケジュールについてはそのようなイメージを持っていただいて結構かなと思っています。

○入試制度改革に向けた意見聴取について

(毎日新聞)

意見聴取が年明けから始められるということですが、広く中学校の現場や私学などからの話もいろいろ聞きながらというお考えだったと思いますが、具体的にどういう方法で、そういう声を吸い上げていくのかと、何か決まっていますでしょうか。

(水野教育長)

例えば、都市教育長協議会に何月にお伺いするとか、私立団体さん、中高連さんにはこの時期に伺うといったことはまだ出せる状況ではございませんが、今おっしゃっていただいたような、様々なステークホルダー、影響を受ける皆様には丁寧に説明をしていきたいと思っています。

○入試制度改革に向けたプロセスについて

(朝日新聞)

令和10年からということは、もう正式決定という理解でいいでしょうか。何か正式決定に当たって議会の承認なども含めて今後、踏まないといけない手続きなどが何かあるのでしょうか、教えてください。

(水野教育長)

もちろん手続きとしまして、我々教育委員会としては執行機関の教育委員会の教育委員の皆さんの議決であるとか、議会への説明は必要かと思いますが、議決は必要ないと思います。あくまで教育委員会の中での執行になってきます。

ですので、我々事務局としましては、細かいプロセスで申し上げると、素案を作り、皆様のご意見を聞いてこういう形で行くとなったたたき台を、教育委員会会議に諮り、そこで執行議決をされましたら、行うという形にはなります。

その間に当然、議会からご意見を頂戴することももちろんございますので、それも含めて、まず我々としては、方針とその中身のたたき台を令和10年スタートに向けて出すということは今オープンにしている、こういうステージでございます。